

2019年3月5日  
株式会社新生銀行

## 「新生ハッカソン」の開催について

新生銀行グループでは、革新的金融サービスを提供する金融イノベーターとして、最先端技術をビジネスへ活用するべく研究を進めており、金融業界でのデータサイエンス人材の育成に努めています。これらの取り組みの一環として、データサイエンスに興味のある大学生・大学院生に対して、ビジネスデータを用いた実践的な分析機会の提供を目的に、データ分析コンテスト「新生ハッカソン」<sup>(※)</sup>を2019年2月18日(月)から2月28日(木)の9日間の期間で開催し、最終日に成果発表ならびに表彰を行う成果発表会を実施しました。

今回で3回目の開催となる新生ハッカソンには、12名の大学生・大学院生が参加しました。参加者は、新生銀行グループが保有する大量のデータを外部の視点から分析し、金融サービスのコア技術である「個人信用リスク予測」の高度化を目指しました。カードローン商品に申し込んだお客さまの1年後の貸し倒れ確率を予測するモデルの開発にあたり、最新の機械学習手法を用い、モデルの精度やアイデアの新規性・発展性を競いました。

成果発表会では、参加者それぞれが約6分間のプレゼンテーションを行い、開発したモデルのフレームとアピールポイント、モデルを活用した分析結果について説明を行いました。審査員には新生銀行グループ内外から有識者を招聘し、一般社団法人データサイエンティスト協会 宮腰 卓志 理事、株式会社日経BP 原 隆 日経 FinTech 編集長、セカンドサイト株式会社 深谷 直紀 取締役兼 CTO、新生銀行 平沢チーフオフィサー(グループ組織戦略兼グループ人事)、新生フィナンシャル 鳥越社長の5名による審査が行われました。

最も判別力が高かったモデルを開発した参加者に授与する最優秀賞には、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の小林 滉河さんが選ばれました。表彰の詳細は以下をご参照ください。

参加した学生からは、「自分の成長に大きくなつた」、「様々なバググラウンドを持った人と同じ目標で競い合えて楽しかった」との声が寄せられました。また、審査員を務めた平沢チーフオフィサーは参加者に対して、「新生銀行グループとして、このような機会の提供が、みなさんのデータサイエンスに触れるきっかけやデータサイエンス人材としての成長につながり、社会に出たときに、より良いデジタル社会の礎となっただけのことになれば、このうえない喜びとなります」と述べました。

本イベントは、参加者の自己成長や同じ領域に興味を持つ仲間同士のミートアップ、データサイエンスによる社会変革を実現するための場を目指し、2年前より開催しています。2018年10月には、本取り組みが評価され「データサイエンスアワード2018」のファイナリストに選出されました。今後も新生ハッカソンを継続的に開催するとともに、新生銀行グループ全体で金融ビジネスへの最先端技術の活用に取り組んでいきます。

### 【新生ハッカソン入賞者】

最優秀賞	小林滉河(筑波大学情報学群知識情報・図書館学類 学部4年)
優秀賞	古田陸太(東京大学工学部電子情報工学科 学部3年)
データサイエンティスト協会賞	宗政友洋(筑波大学情報学群情報科学類 学部4年)
日経 FinTech 賞	五十嵐康太(信州大学経法学部応用経済学科リスク分析コース 学部3年)
特別賞	大矢康介(横浜国立大学大学院環境情報学府情報メディア環境学専攻 修士1年) 宮澤一矢(筑波大学理工学群社会工学類 学部4年)

※ 「ハッカソン(Hackathon)」とは「ハック(Hack)」と「マラソン(Marathon)」を掛け合わせた造語で、一般的にはプログラマーやデザイナーなどからなる複数のチームが、与えられたテーマに対し所定の期間集中的に作業を行い、その成果を競い合うイベントを指します。



新生ハッカソン参加学生および審査員のみなさん

以上